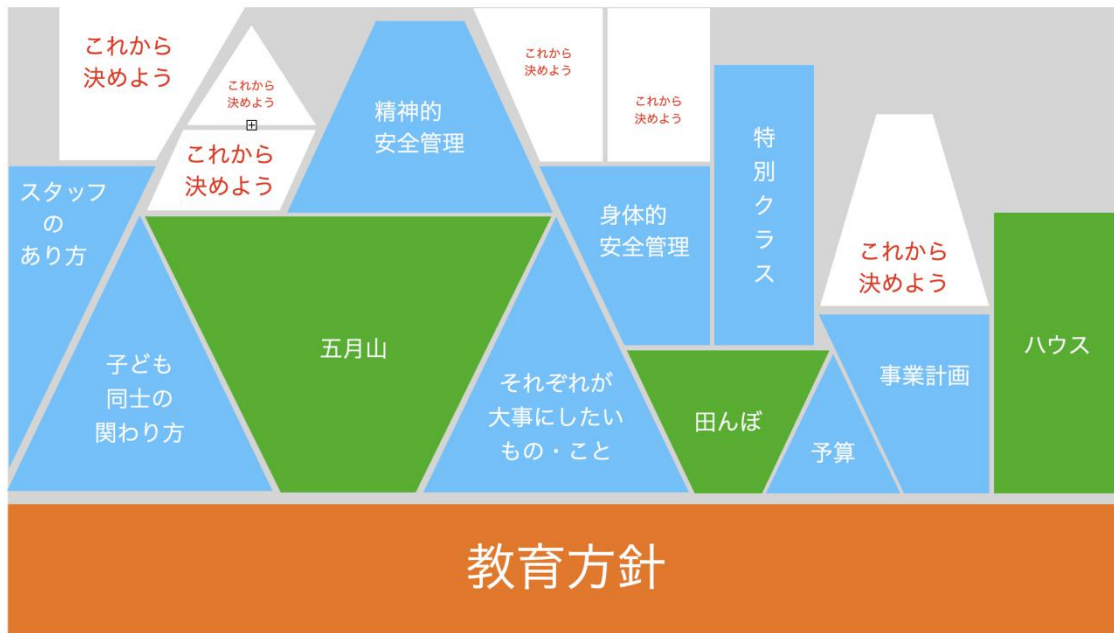


さつきやま森の学び舎の教育方針

教育方針は学び舎の子どもたちの活動の土台になるものです。

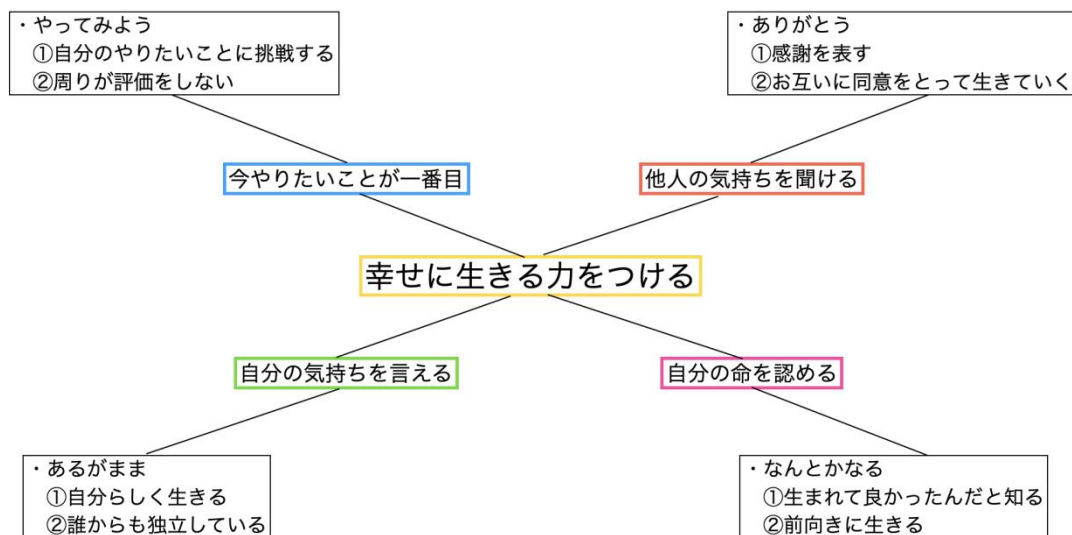


図の茶色の部分が教育方針にあたります。その上の青色のところは教育方法。緑のところ
が教育環境。白いところはこれから決めていくところです。

学び舎は、2017年度と2023年度の2回大きな変化がありました。現在はその2回目の変
化の途中です。これから集まってきた、子ども、保護者、スタッフ、講師で新しい学び舎
を作り直します。

教育方針の部分はある程度普遍的なものになりますが、教育方法と教育環境、これから決
めるところについては、みんなで話し合い、時代にあったものに変化し続けるものです。

さつきやま森の学び舎の教育方針



さつきやま森の学び舎は子どもたちが「幸福に生きる力をつける場所」を目指し活動をしていきます。

これがいちばんの土台となり教育について考えていきます。

次に来る4つのカテゴリーは幸福の四因子からとっています。慶應大学の前野教授の研究により、幸福というものには次の4つが満たされていた時に感じるということがわかったそうです。

「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「あるがまま」

*詳しくはインターネットなどで彼のインタビューなどをご覧ください。

その四因子が常に活動の中にあるようにすることで、幸福が当たり前にある。そして幸福をどんな時代でも作るやり方を知っている子どもたちが育つと考えています。

【今やりたいことが一番目】

このカテゴリーでいちばん大切だと考えているのは、**周りが評価をしない**ということです。本人がやりたいことに挑戦できる環境を自分で考え、周りのサポートを受けながら達成していくものです。

【他人の気持ちを聞ける】

このカテゴリーは他者との関わりについてのものとなります。お互いに**ありがとうを心から言える人間関係を作る**こと。そしてどんな時でも他人と関わることをするときには**お互いの同意をとり行動する**ことを当たり前にしていく。これは物事をするとき、何かを決めるとき、他者との距離について話をするときなど様々なシーンで必要となることです。

【自分の命を認める】

このカテゴリーはまずは**自分の命を認める**ことが大切だと考えています。自分という存在が生まれてきてよかったんだということをしっかりと理解し生きていく。自分を好きになり、自信を持つことでなんとかなるということがいっぱい起こります。自分を大切にすることで他者も大切にできるようになります。

【自分の気持ちを言える】

感情を表す言葉は220個ほどあると言われています。感情を表す言葉を半分ほど使えるようになれば、自分の心が何を思っているかをしっかりと捉えることができます。自分の気持ちを知ることで**自分のあるがままに気がついていきます**。